

第77期

報 告 書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

名糖産業株式会社

目 次

株主の皆様へ	1
連結業績の推移	5
連結財務諸表	
連結貸借対照表	6
連結損益計算書	7
連結株主資本等変動計算書	8
連結キャッシュ・フロー計算書	8
個別業績の推移	9
個別財務諸表	
個別財務諸表（要約）	10
個別株主資本等変動計算書	11
会社の概要、株式の状況、役員	12

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜わり厚く御礼申しあげます。

さて、当社第77期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の営業の概況につきましてご報告申しあげます。

<事業の経過およびその成果>

当連結会計年度におけるわが国経済は、外需が主導して緩やかな回復を続けてきましたが、中国や欧州など海外経済の減速により先行き不透明感が増してきました。米中の貿易摩擦の長期化や深刻な人手不足などが企業経営のリスクとして意識されて、景気の減速が懸念されるようになりました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、消費者の生活防衛意識が根強く残るなか、販売促進費の負担や物流費の高騰などが企業収益を圧迫しました。

こうした情勢のもと、当社グループは、昨年9月に愛知県瀬戸市に新チョコレート工場を本稼働させて生産能力の増強と品質管理体制の強化を図るとともに、高機能商品の提供ならびに販売促進キャンペーンなど積極的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度比0.5%増の23,681百万円となりました。営業利益につきましては、新工場の稼働による減価償却費や物流費の負担増などにより、前連結会計年度比77.6%減の207百万円となりました。また、経常利益は営業利益の減少や新工場の試運転費用の計上などにより、前連結会計年度比51.3%減の692百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前連結会計年度比15.7%減の560百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

食品事業

当連結会計年度におきましては、主力の菓子部門は新商品を投入して積極的な販売促進活動に取り組みましたものの、消費者のハイカカオブームに衣服感が出たことなどにより苦戦して減収となりました。チョコレート類は、「つぶより苺チョコレート」などのパーティーサイズの商品や受託商品などが売上を伸ばしましたが、ファミリーサイズの商品やポケットサイズの商品などが売上を落として減収となりました。キャンディ類は、受託商品の売上が伸びて増収となりました。

粉末飲料部門は、「増量キャンペーン」などの販売促進活動を展開しましたところ、主力の「レモンティー」などが売上を落としましたが、分包アソートタイプの「スティックメイト」シリーズなどの売上が伸長して増収となり

ました。

また、主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、自社商品、受託商品がともに健闘して増収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースペーカーは、積極的な商品提案活動に取り組みましたところ、バウムクーヘン類が売上を落としましたが、ケーキ類が売上を伸ばして増収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前連結会計年度比0.4%増の21,057百万円となりました。営業利益につきましては、新工場の稼働などに伴う減価償却費の増加や物流コストの上昇などにより、前連結会計年度比53.7%減の585百万円となりました。

化成事業

酵素部門につきましては、海外を主な市場としており企業間競争が激化するなか、チーズ用凝乳酵素「レンネット」は売上を若干落としましたが、脂肪分解酵素「リパーゼ」が国内・海外ともに売上を伸ばし、増収となりました。

また、薬品部門につきましては、乳癌転移検出用医療機器で使用される「デキストラナマグネタイト」が前連結会計年度にまとまった受注があったため当期はその反動で減少し、減収となりました。

これらの結果、化成事業の売上高は前連結会計年度比0.8%増の2,295百万円となり、営業利益につきましては前連結会計年度比24.5%減の173百万円となりました。

不動産事業

不動産事業につきましては、事務所や駐車場の賃貸契約の増加などにより、売上高は前連結会計年度比4.1%増の328百万円となり、営業利益は前連結会計年度比17.0%増の130百万円となりました。

<設備投資の状況>

当連結会計年度の設備投資総額は7,479百万円で、主なものは愛知県瀬戸市の新工場の建設などであります。これらに必要な資金は、自己資金および金融機関からの借入金により調達いたしました。

<資金調達の状況>

当社は新工場建設の資金調達を目的として、取引銀行6行との間に総額13,360百万円のシンジケートローン契約を締結しております。なお、当連結会計年度において7,860百万円の借入れを行い、当連結会計年度末における借入実行残高は13,360百万円であります。

<対処すべき課題>

当社グループを取り巻く環境は、外需の主導で景気の回復を続けてきましたが、海外経済の減速が鮮明となってその影響を受け始めました。国内人口の減少により市場が縮小していくなかで、消費者の節約志向は根強く残って

おり、今後も企業間の厳しい販売競争が続くものと予想されます。また、食品業界におきましては、消費者の健康や安全性への志向が高まって、食品の安全性確保と品質向上への取り組みが一層強く求められている一方で、販売促進費の増加や物流費の高騰は企業収益を圧迫しております。

このような状況のもと、当社グループは、安全・安心で高機能な商品を提供して売上規模の拡大を図り、昨年9月に本稼働した新工場の生産性を上げるとともに、事業活動の効率化を進めて収益力を強化して、持続的な発展と企業価値の増大を目指してまいります。具体的な取り組み課題は以下のとおりであります。

* 食品事業につきましては、人口減少や高齢化に伴う国内市場の縮小や消費者の根強い低価格志向などにより企業間の販売競争は激しさを増しており、厳しい経営環境が続くものと予想されます。このような環境のもと、当社グループは、消費者の健康志向の高まりや高品質な商品への要請にお応えできるよう、市場のニーズを的確に捉えた商品ラインアップの拡充と営業活動に取り組んでまいります。同時に「アルファベットチョコレート」や粉末飲料の「レモンティー」、また連結子会社である株式会社エースベーカーリーの「厚切りバウムクーヘン」などの中核ブランドをさらに強化するとともに、グループ各社の連携を一段と高めて効率的な運営を行い、食品事業のシェア拡大を目指してまいります。

また、昨年9月に稼働した新工場の生産能力を最大限に発揮できるように、徹底したコストダウンと品質の向上を実現してまいります。

一方、高齢化社会が進むなか、市場の広がり期待される栄養食品につきましては、当社の技術を活かした商品を提案して事業の拡大を目指してまいります。

さらに、株式会社エースベーカーリーにおきましても、消費者ニーズを捉えた商品開発と営業施策に取り組み、販売力の強化と収益力の向上に努めてまいります。

今後も当社グループは、原材料の厳選とFSSC22000に則った食品安全マネジメントシステムの運用などにより品質管理体制を強化して、お客様に安全で高品質な商品をお届けできますよう注力してまいります。

* 化成品事業の酵素部門におきましては、主力製品であるチーズ用凝乳酵素「レンネット」の欧米・中近東・中南米など海外市場での販売促進を一層強化してまいります。開発済みの改良次世代品につきましても、その付加価値を活かして新規販路の獲得に努めてまいります。脂肪分解酵素「リパーゼ」やリン脂質製造酵素「ホスホリパーゼ」につきましては、生産性向上や性能および品質の改良により競争力を高め、新規用途および顧客開拓を行い、販売を促進してまいります。加えて、海外市場での

更なる展開を目指し、各国規制に対応する安全性データを収集してまいります。また、生産の効率化や環境にも配慮したエネルギーコスト削減を進めて収益力の強化を目指します。

薬品部門では、MRI（磁気共鳴画像）診断用肝臓造影剤『リゾビスト』の原薬「フェルカルボトラン」を始めとする磁性流体「デキストランマグネタイト」につきましては、癌のリンパ節転移検出用機器の普及とともに、新たな画像診断装置での利用や新規MRI造影剤の開発研究を促進してまいります。医薬品などの原料である「デキストラン」につきましては、医療分野で新製品開発に取り組むほか、食品用途や特殊な工業用途での販売も推進してまいります。また、「デキストラン」から合成した誘導体の化粧品や臨床検査薬分野などでの販売拡大とともに、長年培った多糖類合成の技術を生かし、新規化合物や、新規機能の開発を通して新たな市場開拓を目指します。混合飼料「ヘルシーフレンド」につきましては、当社の独自性の高い製品という特性を生かし、引き続き国内外での販売拡大に努めてまいります。

いずれの分野でも国内外からの安全と品質に対する要請が強まっておりますので、食品用途に関しましてはFSSC22000、医薬用途におきましては原薬GMPガイドライン、飼料は飼料GMPに則り、生産管理、品質管理基準の向上に取り組み、事業基盤の強化に努めてまいります。

今後とも時代の変化に対応し、お客様に信頼され社会に貢献できる企業として継続的に発展するよう、全社を挙げて努力する所存であります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご指導とご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

2019年6月

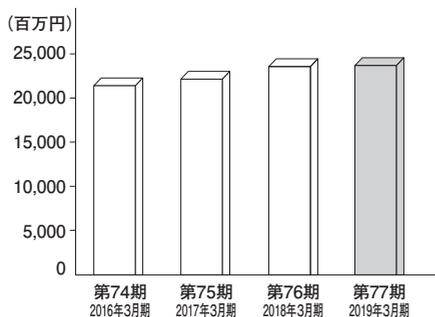
代表取締役社長 小 島 寛 志

連結業績の推移

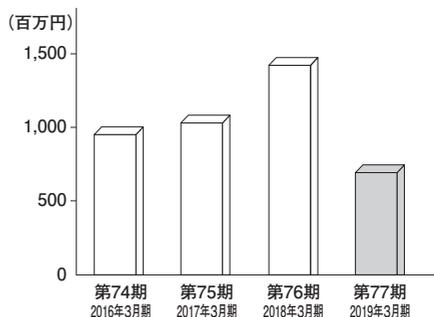
区 分	第74期 (2016年3月期)	第75期 (2017年3月期)	第76期 (2018年3月期)	第77期(当期) (2019年3月期)
売上高(百万円)	21,390	22,137	23,565	23,681
経常利益(百万円)	951	1,030	1,422	692
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	763	877	664	560
1株当たり当期純利益(円)	45.40	51.95	39.32	33.15
総資産(百万円)	51,807	60,570	67,577	72,107
純資産(百万円)	38,670	41,019	44,016	43,962

(注) 連結子会社3社
株式会社エースペーカー、名糖乳業株式会社、プリンスゴルフ株式会社
持分法適用会社1社
名糖アダムス株式会社

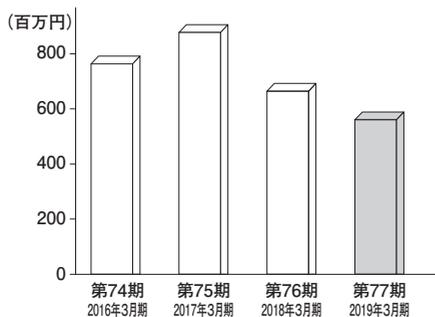
連結売上高



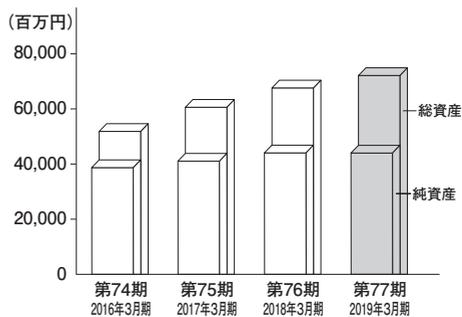
連結経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



連結総資産／連結純資産



連結財務諸表

連結貸借対照表 (2019年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	11,417	流動負債	6,047
現金及び預金	2,594	支払手形及び買掛金	2,309
受取手形及び売掛金	5,003	短期借入金	100
商品及び製品	1,155	1年内返済予定の長期借入金	832
仕掛品	471	未払金	173
原材料及び貯蔵品	1,140	未払費用	2,002
その他	1,068	未払法人税等	26
貸倒引当金	△17	返品調整引当金	4
固定資産	60,689	固定資産撤去費用引当金	210
有形固定資産	24,370	その他	388
建物及び構築物	10,267	固定負債	22,096
機械装置及び運搬具	7,991	長期借入金	12,834
工具器具及び備品	214	繰延税金負債	5,918
土地	5,080	役員退職慰労引当金	10
建設仮勘定	815	退職給付に係る負債	2,966
無形固定資産	130	その他	366
投資その他の資産	36,188	負債合計	28,144
投資有価証券	36,069	(純資産の部)	
長期貸付金	7	株主資本	27,252
繰延税金資産	7	資本金	1,313
その他	133	資本剰余金	76
貸倒引当金	△28	利益剰余金	26,569
資産合計	72,107	自己株式	△706
		その他の包括利益累計額	16,710
		その他有価証券評価差額金	16,683
		退職給付に係る調整累計額	27
		純資産合計	43,962
		負債・純資産合計	72,107

連結損益計算書 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金	額
売 上 高		23,681
売 上 原 価		15,695
売 上 総 利 益		7,985
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		7,777
営 業 利 益		207
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	636	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	50	
そ の 他	23	711
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	35	
固 定 資 産 除 売 却 損	48	
支 払 手 数 料	4	
試 運 転 費 用	119	
そ の 他	18	226
経 常 利 益		692
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		692
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	154	
法 人 税 等 調 整 額	△21	132
当 期 純 利 益		560
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		560

連結株主資本等変動計算書 (2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計	
当 期 首 残 高	1,313	76	26,347	△705	27,031	16,987	△2	16,985	44,016
当 期 変 動 額									
剰余金の配当			△337		△337				△337
親会社株主に帰属 する当期純利益			560		560				560
自己株式の取得				△1	△1				△1
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△304	29	△274	△274
当期変動額合計	—	—	222	△1	220	△304	29	△274	△53
当 期 末 残 高	1,313	76	26,569	△706	27,252	16,683	27	16,710	43,962

連結キャッシュ・フロー計算書 (2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

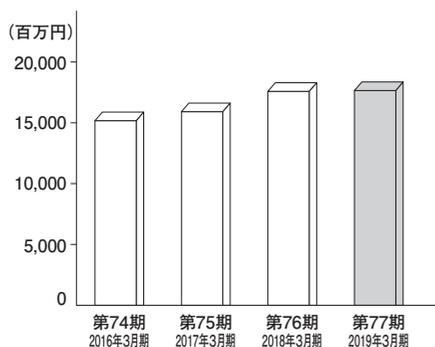
(単位：百万円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	523
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,930
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,396
現金及び現金同等物に係る換算差額	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,010
現金及び現金同等物の期首残高	4,605
現金及び現金同等物の期末残高	2,594

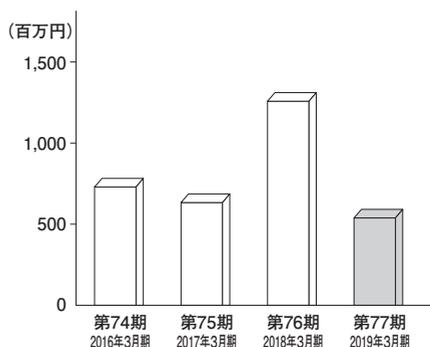
個別業績の推移

区 分	第 74 期 (2016年 3 月期)	第 75 期 (2017年 3 月期)	第 76 期 (2018年 3 月期)	第77期(当期) (2019年 3 月期)
売 上 高 (百万円)	15,151	15,878	17,552	17,616
経 常 利 益 (百万円)	728	632	1,257	537
当期純利益 (百万円)	744	444	558	425
1 株当たり当期純利益 (円)	44.26	26.35	33.05	25.17
総 資 産 (百万円)	48,997	57,584	64,447	69,088
純 資 産 (百万円)	38,498	40,156	42,971	42,822

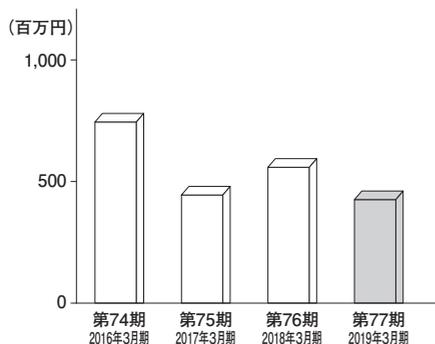
売上高



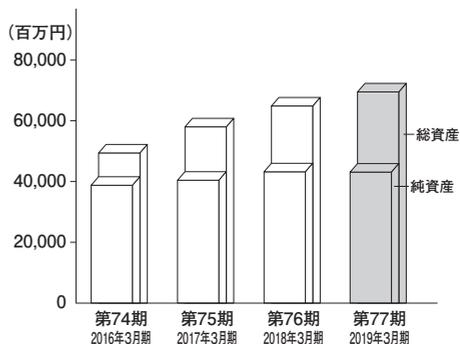
経常利益



当期純利益



総資産／純資産



個別財務諸表（要約）

個別貸借対照表

（2019年3月31日現在）（単位：百万円）

科 目	金 額
（資産の部）	
流動資産	10,321
固定資産	58,766
有形固定資産	23,302
無形固定資産	91
投資その他の資産	35,372
資産合計	69,088
（負債の部）	
流動負債	4,682
固定負債	21,584
負債合計	26,266
（純資産の部）	
株主資本	26,234
資本金	1,313
資本剰余金	76
利益剰余金	25,551
自己株式	△706
評価・換算差額等	16,588
純資産合計	42,822
負債・純資産合計	69,088

個別損益計算書

（2018年4月1日から
2019年3月31日まで）（単位：百万円）

科 目	金 額
売上高	17,616
売上原価	11,235
売上総利益	6,381
販売費及び一般管理費	6,303
営業利益	77
営業外収益	671
営業外費用	211
経常利益	537
税引前当期純利益	537
法人税、住民税及び事業税	127
法人税等調整額	△14
当期純利益	425

（注）1株当たり当期純利益 25円17銭

個別株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本								
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					利益剰余金合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金					
				配当準備積立金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	1,313	76	328	720	891	22,200	1,323	25,463	
当期変動額									
剰余金の配当							△337	△337	
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の減少					△2		2	—	
当期純利益							425	425	
自己株式の取得									
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計	—	—	—	—	△2	—	89	87	
当期末残高	1,313	76	328	720	889	22,200	1,413	25,551	

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△705	26,148	16,823	16,823	42,971
当期変動額					
剰余金の配当		△337			△337
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の減少		—			—
当期純利益		425			425
自己株式の取得	△1	△1			△1
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			△235	△235	△235
当期変動額合計	△1	86	△235	△235	△149
当期末残高	△706	26,234	16,588	16,588	42,822

会社の概要 (2019年3月31日現在)

社名	名糖産業株式会社
本社所在地	名古屋市西区笹塚町二丁目41番地
設立	昭和20年(1945年)2月
資本金	13億1,325万円
事業内容	食品・化成品の製造販売および不動産賃貸
従業員数	353名
主な事業所	支店 東京・名古屋・大阪・福岡 工場 名古屋・瀬戸・枇杷島・小牧・八王子・福岡
子会社	株式会社エースパーカー (愛知県小牧市) 名糖乳業株式会社 (福岡県飯塚市) プリンスゴルフ株式会社 (福岡県宮若市)

株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	17,265,000株
株主数	12,702名

役員 (2019年3月31日現在)

代表取締役社長	小島寛志
常務取締役	三矢益夫
取締役	山崎潔
取締役	梶原八雄
取締役	藤田欣弘
取締役・常勤監査等委員	瀧川敦志
取締役・監査等委員	稲越千束
取締役・監査等委員	宮博則

(注) 取締役・監査等委員稲越千束氏および宮博則氏は、社外取締役であります。

世代をこえて愛されるおいしさ。



おいしさ
こだわり

自社工場でカカオ豆から一貫生産。
独特のカカオのコクと薫りを持ち味
とした本格派のチョコレート。



アルファベットチョコレート

株式会社 エスベーカーリー



レモンティー

香り高い紅茶にレモンを加えた本格派。
1杯でレモン2個分のビタミンC。



30個果汁100%ゼリー

それぞれの果汁とリンゴ果汁をブレンドし、
グレープ、ピーチ、オレンジ、アップルの味
が楽しめる果汁100%ゼリーです。

株 主 メ モ

事業年度 定時株主総会 公告の方法

毎年4月1日から翌年3月31日まで

6月中

電子公告により行います。

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告により公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告のホームページアドレス <https://www.meito-sangyo.co.jp>

上場証券取引所 株主名簿管理人

名古屋・東京

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

(お知らせ)

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

2. 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

3. 配当金計算書について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただけます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

■株主様ご優待

毎年9月末(中間期末)現在100株以上ご所有の株主様へ当社商品または当社グループ会社商品を年1回12月上旬に贈呈させていただきます。

●100株以上	1,000株未満	………	小売価格	1,500円相当商品
●1,000株以上	5,000株未満	………	小売価格	3,000円相当商品
●5,000株以上	………	………	小売価格	5,000円相当商品

meito

名糖産業のホームページをご覧ください。

<https://www.meito-sangyo.co.jp>

環境に配慮し、植物油インキ
を使用しています。

